



みんなで力を合わせて、
きのと小

燦
だより

子どもの方をしっかりと向いて、大事に大事に育てましょう

平成28年11月11日
学校だより 12号
胎内市立きのと小学校
<http://tainai-ed.nxc.jp/kinoto-es>



読書のススメ ～読んで(学んで)考える～

校長 佐藤新一

11月4日(金)本年度2回目の避難訓練は、ひだまり保育園と合同で行う引渡訓練も兼ねていました。子どもたちが迎えを待つ体育館に次々とお家の方が来られ、整然と引き渡される様は今までの訓練の賜物と感じました。保護者の皆さんのご協力に感謝いたします。

学んで思わざれば則(すなわ)ち罔(くら)し 思うて学ばざれば則ち殆(あやう)し

これは論語の一つです。『どんなに本をたくさん読んでも、先生から教えてもらっても自分できちんと考えてみないと何もはっきりとは分からない。一人で考え込むだけで広く学ばなければ、狭くかたよってしまう危険がある。』という意味だそうです。それにしても、まずは考えるための知識や生き方を読書や学習で得たいものです。

小さい頃、私は遊んでばかりであり本を読みませんでした。後悔が残ります。やはり、読書でいろいろなことに出会えていたらと今になって思うのです。

読書は人にとって最高レベルの知的活動

さて、近年はゲーム・テレビ・タブレットなどに多くの時間が費やされ、読書の時間は減少傾向にあるようです。しかし、読書の大切さを分かっている人は多いと思います。本の中に描かれた世界に接することは、人の知的活動のジャンルとしては最高レベルと言う人もいます。実際に読書することで、集中力・記憶力・思考力・言語能力などが動員されるからです。しかし、それを長い間使わないと機能は低下することになります。

今月の人 本で学び考えた「二宮金次郎」

今月の全校朝会で二宮金次郎の話をしました。若い頃に大きな洪水があり、田畑が流され、10代の中頃には父母を続けて亡くし、金次郎たち兄弟はばらばらに親戚に預けられます。

その頃薪運びをしながらも、金次郎は常に本を持っていました。彼は、一休みする時には本を読み、歩きながら考えるという勉強をしたようです。その勉強が力になり、家を建て、田畑を買い戻し、藩をも立て直し、殿様に感謝されます。幕府の役人にまでなりました。

たくさんの本を読み、考えることが大切であると金次郎が言っているようです。



読み聞かせから

学校は、定期的に「小すずめの会」の皆さんから来ていただき読み聞かせをしていただいています。また、時間の空いているときには、水ぼうそうサポーターズの方からも来ていただいています。15日は、読書旬間として担任以外の職員が各教室に入って読み聞かせをします。

そのことで、本の楽しさを知り、自分で借りて読もうと思ってくれるはずです。

お家でも機会を見つけ、読み聞かせをし、興味を持ちそうな本を薦めてみてください。

講師の笠井康平先生、小嶋良二先生です。 よろしく願います。

職員の病気休暇に伴い、9月からたんぼぼ学級担任として笠井講師から、11月10日から級外として小嶋講師から来ていただいています。(笠井講師の紹介遅くなり済みません) よろしく願います。

